

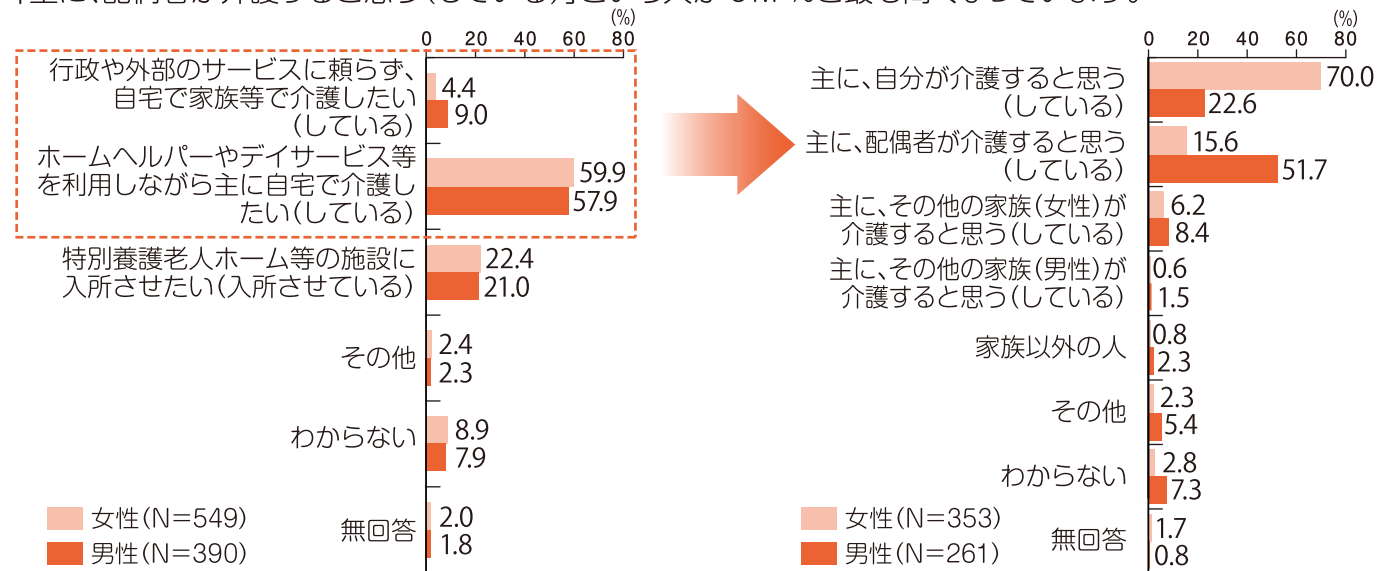
5 介護について

家族を介護する場合の希望(現状)と自宅で介護する場合の介護の担い手

《男女ともに介護は女性が担うという認識が半数以上》

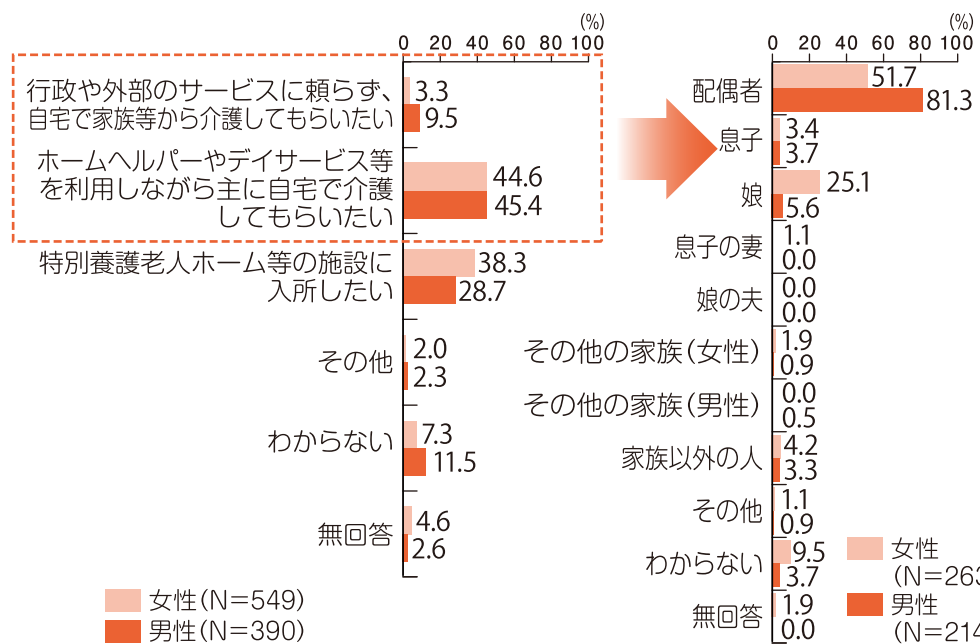
自分の家族を介護する場合、男女とも「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に自宅で介護したい(している)」(女性：59.9%、男性：57.9%)が最も高く、次いで「特別養護老人ホーム等の施設に入所させたい(入所させている)」(女性：22.4%、男性：21.0%)となっています。

自宅で介護する場合、女性は「主に、自分が介護すると思う(している)」という人が70.0%、男性は「主に、配偶者が介護すると思う(している)」という人が51.7%と最も高くなっています。



自分が介護される場合に希望する介護の形態と介護者

《男性の8割は配偶者に、女性の2割以上が娘に介護されたいと考えている》



自分が介護される場合、男女とも「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」(女性：44.6%、男性：45.4%)が最も高くなっています。

自宅で介護される場合、男性は「配偶者」に介護されたいという人が81.3%と高くなっていますが、女性は「配偶者」が51.7%で、「娘」が25.1%となっています。

6 男女の人権について

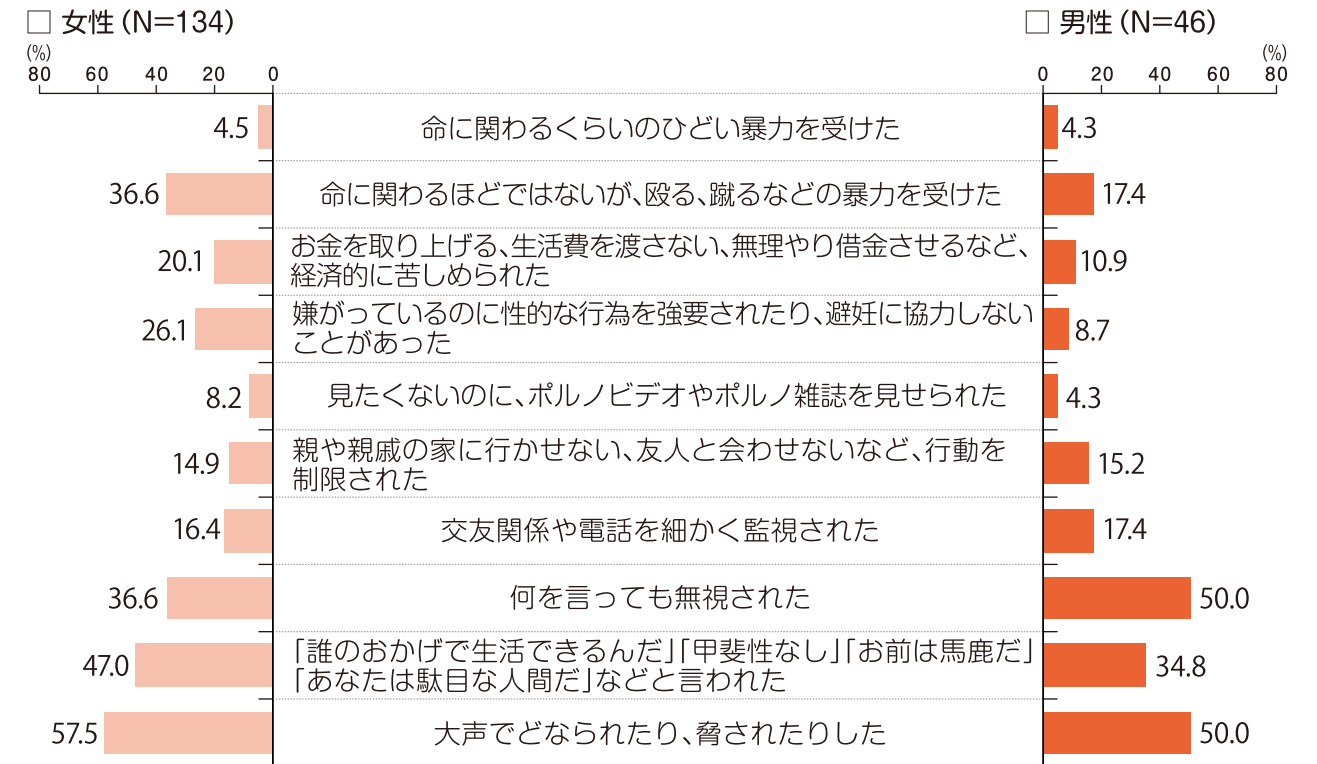
受けた経験のあるドメスティック・バイオレンス(DV)(複数回答)

《受けた経験のあるDVの中では精神的な暴力が比較的多い》

受けたDVの内訳は、女性では「大声でどなられたり、脅されたりした」が57.5%、「『誰のおかげで生活できるんだ』などと言われた」が47.0%となっています。男性では「何を言っても無視された」と「大声でどなられたり、脅されたりした」が同率の50.0%となっています。

配偶者暴力防止法

配偶者(事実上の婚姻関係にある男女、離婚後に被害を受けている人も含める)からの暴力の防止と被害者の保護を目的とする法律で、平成13年10月に施行されました。裁判所による保護命令などが規定されています。平成20年施行の法改正では被害者の定義の拡大、市町村に基本計画策定の努力義務などが盛り込まれました。



※何らかのDVを受けた経験があった(「何度もあった」または「1、2度あった」と回答した人の被害内容です。)

DVを見聞きした経験(複数回答)

《男女とも半数以上の人々がテレビや新聞等でDVが問題になっていることを知っている》

男女ともに「テレビや新聞等で問題になっていることを知っている」が最も高く、女性で55.7%、男性で56.7%と半数以上となっています。

